

うえだ 環境市民会議 News

第48号

うえだ環境市民会議の活動には、誰でも、どのプロジェクトチームにも参加できます。参加ご希望の方は、生活環境課までご連絡ください。豊かな環境を未来に残すために、一緒に活動しましょう。

この情報誌は自治センター、公民館、図書館、情報ライブラリー、市生活環境課の窓口で配布しております。

発行：うえだ環境市民会議

〒386-8601 上田市大手一丁目11-16
上田市生活環境課内

電話：0268-23-5120

FAX：0268-22-4127

E-mail seikan@city.ueda.nagano.jp

「環境をよくしたいひと 大集合2018」を開催

うえだ環境市民会議議長 町田 勉

去る12月1日(土)塩田公民館にて、「環境をよくしたいひと大集合2018」が開かれました。本イベントは“地球の未来を語ろう”をテーマに、うえだ環境市民会議が主催し、市内で活動する環境関連団体が一堂に会し、1年間の成果をパネル展示や、活動報告を行い、さらには情報交換と交流会を行い、今年で6回目を数えます。今回は別表のとおり、9団体がパネル展示を、うち7団体がアイデアと工夫を凝らした、活動報告を行いました。

発表に先立ち、私から環境活動の基本は「問題を地球規模で考え、足元から行動する」、「出来ることから始めないと、何も始まらない」。専門性の高い大きなテーマも、もちろん重要ですが、“身近で誰にでもできる、市民活動に広げていければ”と強調

し、身近な家庭用生ごみの処理について例を示しました。また今年から注目され始めた「エシカル消費」も推進していきますと挨拶しました。

「エシカル消費」は人や地域・社会、環境に配慮した考え方や、これらを選んで消費する行動と言われています。つまり、物やサービスを問わず、環境や健康にやさしい生産者の顔が見える物を買う、賢い消費者になることのようにです。世界的には2010年頃から、環境先進国のイギリスから本格的に広まり、日本では2015年から消費者庁で「エシカル消費」の枠組みが行われ、長野県では今年から、「エシカル消費」を、広く県民に、周知啓蒙する動きを始めたばかりです。内容の浸透やPRは、県や市を中心に、これからの課題かと考えます。

日常の一寸した心掛けができれば、大きな力になります。できることから、コツコツやるのが大切です。これが「エシカル消費」にまた、「地球の未来」に繋がるものと確認できたイベントでした。

別表：パネル展示・活動報告団体一覧（**太字**は活動報告発表団体）

団体名	活動内容紹介
① 小柳産業（株）	「資源にも愛を」・廃棄物を明日の資源と考え、リサイクルに努力している。（活動報告前に、ごみの分別・特にプラごみの分別と出し方について講演）
② 自然エネルギーシフトチーム （うえだ環境市民会議）	環境に優しい自然エネルギーへの転換を推進し、特に原子力発電の抱える問題について考え、市民へ啓発活動を実施。
③ ごみ減チーム （うえだ環境市民会議）	家庭から出る生ごみをボカシを使って肥料にして、安心・安全な野菜を作っている。CO ₂ の削減の取り組みとして、レジ袋の削減活動をしている。
④ ヤマンバの会	塩田平の唐臼山の老松（ヤマンバの木）の「切り株」に集った市民により創立された市民団体（結成25周年）。自然保護と文化を結びつけた活動。
⑤ 自然エネルギー上小ネット	企業・家庭から排出されるCO ₂ を削減するために、省エネの実践者・専門家の育成と、省エネの啓発・診断の出前講座を行う。
⑥ NPO 法人信州元気塾	小型家電等の解体を通じて資源リサイクルと、障がい者の就労支援を組み合わせた活動を行っている。
⑦ 上田地球を楽しむ会	上田地域の自然についての観察・学習会、講演会などの活動を開催している。風穴の分布や気温の測定や里山の炭酸ガス吸収量などの測定を実施。
⑧ ヴィーガン・フォレスト	訴えたいことは1つ。食卓から肉を減らそう、環境のため、健康のため、動物のため。「動物を着ない、食べない、遊ばない」のライフスタイル。
⑨（一社）NECO	市民発電の出番。みんなの思いを「カタチ」にするサポートをするために、NECOは生まれた。



▲活動報告の様子



▲交流会の様子